

大正区地域包括支援センター運営協議会での議事要旨

開催年月日： 令和2年7月29日（水）

項 目	議事要旨
(1) 令和元年度地域包括支援センターの収支報告	<p>(意見①)：包括的支援事業の委託料が総価契約に変わったので、包括だけの収支ではなく、法人全体の収支を見たかった。</p> <p>(事務局)：見やすい形のを来年度は考える予定と大阪市から聞いている。(法人全体の収支は法人によって異なるため見にくいため)</p> <p>(意見)：様式は統一しなくてもいい。包括が余剰分をどのように法人で適切に活用されているかが重要。</p> <p>(意見②)：包括的支援事業の委託料がなぜ北部包括と区包括で違うのか？</p> <p>(包括) 4年契約の中で高齢者人口によって必要な人員数も違うため。大阪市が決める。</p> <p>(意見③)：自立支援型ケアマネジメント検討会はもっと取り組むべきである。</p>
(2) 令和元年度地域包括支援センターの評価	<p>詳細については当日の資料参照。</p> <p>(意見④)：実態確認を区は包括の記録でおこなっているが、もっと包括が実際地域に対しておこなっている事業に参加して、住民が包括の活動をどのように思っているかの生の声を聞き、評価してほしい。ケアマネや住民の意見聞いてほしい。</p> <p>(区) 参加していきたいと思っている。</p>
(3) 令和元年度総合相談窓口の評価	<p>詳細については当日の資料参照。</p> <p>(意見⑤)：ランチの独自の役割を持った方がよい。枠を超えた事業はできないか？例えばどちらかのランチが障がい者問題を取り上げるとか。包括と被らない内容をやった方がいいのでは？</p>
(4) 令和元年度地域包括支援センターの課題対応取り組み報告について	<p>詳細については当日の資料参照。</p> <p>【北部包括の課題対応取り組み報告に対するコメント】</p> <p>地域に出向いた相談会や周知活動を実施するにあたり、地域関係者と連携して取り組んでいるという【地域性】があり、認知症座談会の開催が地域関係者とうまく準備できたことは地道に周知活動を実施し、包括が地域関係者から信頼され【継続性】のある取り組みをおこなっているからだと思われる。地域関係者や関係機関との更なるネットワーク構築が進み【浸透性】のある活動になっている。今後も継続して周知活動を行い、地域包括支援センターが高齢者の相談窓口であることを、年代を問わず地域に広まり、支援の必要な高齢者の早期発見につながることを期待します。よって、【地域性】【継続性】【浸透性】の項目を充たしていると決定する。</p>

	<p>【区包括の課題取り組み報告に対するコメント】</p> <p>単身高齢者の認知機能の低下や地域コミュニティの衰退、次世代に繋がる地域活動の担い手も不足しているという【地域特性】をふまえ、地域における認知症高齢者支援ネットワーク構築に向けた取り組みが必要という課題に対し、認知症カフェ、出張相談会を【継続】開催することにより定着してきている。令和元年度より出張認知症カフェ（つるちゃんカフェ）を開始し、鶴町地域の高齢者や地域関係者とのネットワーク強化につながっています。高齢者支援ネットワーク強化に広がっていくことが期待できる。また小林地域の相談件数が増えたのは昨年度小林地域で地道に相談会を開催した成果であり【浸透】が図られている。よって【地域性】【継続性】【浸透性】の項目を充たしていると決定する。</p>
<p>その他：事務局より 地域包括ケアのあり 方・地域福祉の単位に ついて</p>	<p>統計資料配布し、3回目の運協につなぐ形とした。</p>